

令和4年度第2回「学ぶ土台づくり」研修会(入門編)

「環境を通して行う教育及び保育」

参考:幼稚園教育要領解説(文部科学省 平成30年3月)
保育所保育指針解説(厚生労働省 平成30年3月)
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説
(内閣府・文部科学省・厚生労働省 平成30年3月)
幼保連携型認定こども園における園児が心を寄せる環境の構成
(内閣府・文部科学省・厚生労働省 令和4年3月)

主催 宮城県教育委員会

発達に応じた環境からの刺激

◎幼児は**環境との相互作用**によって

発達に必要な経験を積み重ねていく。

環境とは…

自然環境に限らず、人も含めた幼児を取り巻く環境の全て

発達を促すためには…

活動の展開によって**柔軟に変化**し、幼児の興味や関心に応じて**必要な刺激が得られるような環境**が必要

適切な環境があること

幼児教育施設における様々な環境



- ・幼児が友達と関わって活動を展開するのに必要な
遊具・用具・素材・時間・空間

- ・幼児が生活の中で触れ合うことができる
自然や動植物



適切な環境があること

幼児教育施設においての様々な環境

このような環境が単に存在するだけでは、必ずしも
幼児の発達を促すものになるとは限らない。

遊具・用具・素材・時間・空間

保育者は...

「幼児が環境と出会うことにどのような意味があるのか」

「どのような興味や関心を抱き、どのように関わろうとしているのか」

を理解する必要がある。

環境を通して行う教育及び保育の 価値と重要性

幼児期は

◎知識や技能を一方的に教えられて身に付けていく時期ではない。

◎生活の中で自分の興味や欲求に基づいた直接的・具体的な体験を通して、この時期にふさわしい生活を営むために必要なことが次第に培われる時期である。

環境を通して行う教育及び保育の 価値と重要性

幼児期の教育及び保育において重視すること

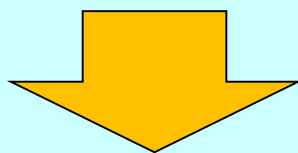
- 幼児が生活を通して身近なあらゆる環境からの刺激を受け止める。
- 自分から興味をもって環境に主体的に関わりながら、様々な活動を展開する。
- 充実感や満足感を味わうという体験を重ねていく。

環境との関わり方や意味に気づき、
これらを取り込もうとして、
試行錯誤したり、考えたりするようになることが大切。

環境を通して行う教育及び保育の 価値と重要性

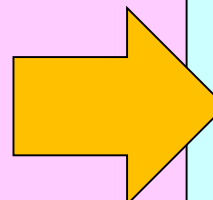
保育者は…

幼児期の教育における見方・考え方を生かし、**幼児と共に**
よりよい教育及び保育の**環境を創造**するように努めることが
重要



幼児は…

- ・環境とのより面白い関わり方を見いだす
- ・関連性に気付いて意味づけする
- ・それを取り込もうとして試行錯誤，考え，捉え直す



**環境との関わり方
を深めるようになっていく。**

環境を通して行う教育及び保育の 価値と重要性

人間の生活や発達

関わり合い

周囲の環境

この時期に**どのような環境とどのように関わり**生活をしてきたのかが、**将来にわたる発達や生き方**などにも**重要な意味**をもつことになる。

環境を通して行う教育及び保育の 価値と重要性

幼児期の教育及び保育

◎幼児が様々な環境と関わることを通して、その発達を促す意図的な教育及び保育

保育者は…

- ◆「環境に関わる中で幼児に体験してほしいこと」を考慮しながら見通しをもって計画を立てる。
- ◆意図的に教育的及び保育的価値を含ませながら環境を構成していく。

幼児の主体性と保育者の意図

幼児教育施設における教育及び保育が目指しているもの

~~幼児が一つ一つの活動を効率よく進めるようになる。~~

◎幼児が自ら周囲に働き掛けて、試行錯誤を繰り返し、自らの発達に必要なものを獲得しようとするようになる。

幼児の主体性と保育者の意図

幼児が自ら周囲の環境に働き掛けて様々な活動を生み出し、それが幼児の意識や必要感、あるいは興味などによって連続性を保ちながら展開されることを通して育てられていく。

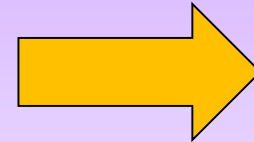
◎活動の主体は幼児

◎保育者は、活動が生まれやすく、展開しやすいように意図をもって環境を構成していく。

「環境の構成」と「環境の再構成」

保育者が必要と考えて構成した環境でも…

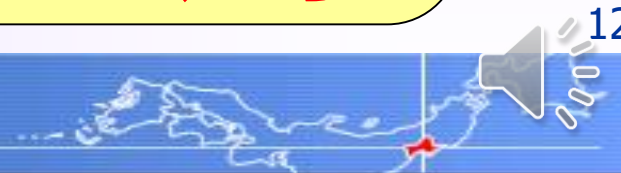
- ・幼児の興味や関心と合わず受け入れられない
- ・幼児の興味や関心が次々と変化する
- ・幼児の興味や関心が深まる



幼児の活動が保育者の**予想とは違った展開**を示す場合がある

それは…

- ◎実際に幼児が出会う状況が幼児に新たな興味や関心を引き起こすから
- ◎幼児自身が活動することにより、状況を変えていくから



「環境の構成」と「環境の再構成」

そのような場合，環境が最初に構成されたまま固定されていると…

- ・幼児の主体的な活動が十分に展開されなくなる
- ・体験も豊かなものとはならない

保育者は…

- ◎幼児の主体的な活動に配慮して，幼児の興味や関心と活動の流れを把握
- ◎臨機応変に環境をつくり直そうとする柔軟な姿勢

「環境の構成」と「環境の再構成」

計画的な環境の構成

- ・状況の変化に即した必要な援助を重ねる
- ・幼児の発達にとって意味のある状況をつくり出す柔軟な環境の再構成の視点

保育者が幼児の活動の流れや心の動きの変化などを的確に把握し、幼児に寄り添いながら幼児の内面の動きを理解

環境を捉え直ししながら、教材を工夫し環境をつくり直す
「環境の再構成」が大切

まとめ

- ◎幼児の充実感や満足感は、いろいろな活動を次から次へと行っているだけでは十分に味わうことができない。
→幼児が**本当にやりたい**と思い、**夢中になって取り組める活動**を！

環境構成の工夫

- ・幼児が自ら周囲に働き掛けて、試行錯誤を繰り返し、発達に必要なものを獲得できる環境構成
- ・幼児が活動に没頭する中で思いを巡らし、心を動かしながら豊かな体験ができる環境構成